

# 平成30年度の審議の進め方

平成30年7月13日  
中部地方整備局

## 公共事業評価手法研究委員会中間とりまとめ・実施要領の改定

○ 更なる事業評価手法の改善を目的として、近年の事業評価の状況を踏まえ、公共事業評価手法研究委員会を開催し検討。

○ 公共事業評価手法研究委員会 中間とりまとめを公表。(平成30年3月30日)

### 中間とりまとめのポイント(抜粋)

#### 再評価

- ①事業進捗確認の徹底
- ②再評価資料の簡明化
- ③再評価実施間隔の見直し

#### 事後評価

- ①多様なストック効果の把握
- ②ストック効果や知見のアーカイブ化

○ 国土交通省所管公共事業の事業評価実施要領を改定。(平成30年3月30日)

# 事業進捗確認の徹底

	<p>中間とりまとめのポイント・実施要領の改定概要 (平成30年3月30日)</p>	<p>中部地方整備局の対応</p>
進捗確認	<p>■ 事業進捗確認の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業期間や事業費等の進捗状況を適切なタイミングで確認し、適宜公表</li> </ul>	<p>■ 事業進捗確認の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>再評価に至るまでの事業の実施過程において適時適切(節目)に進捗状況を確認し公表</li> </ul>

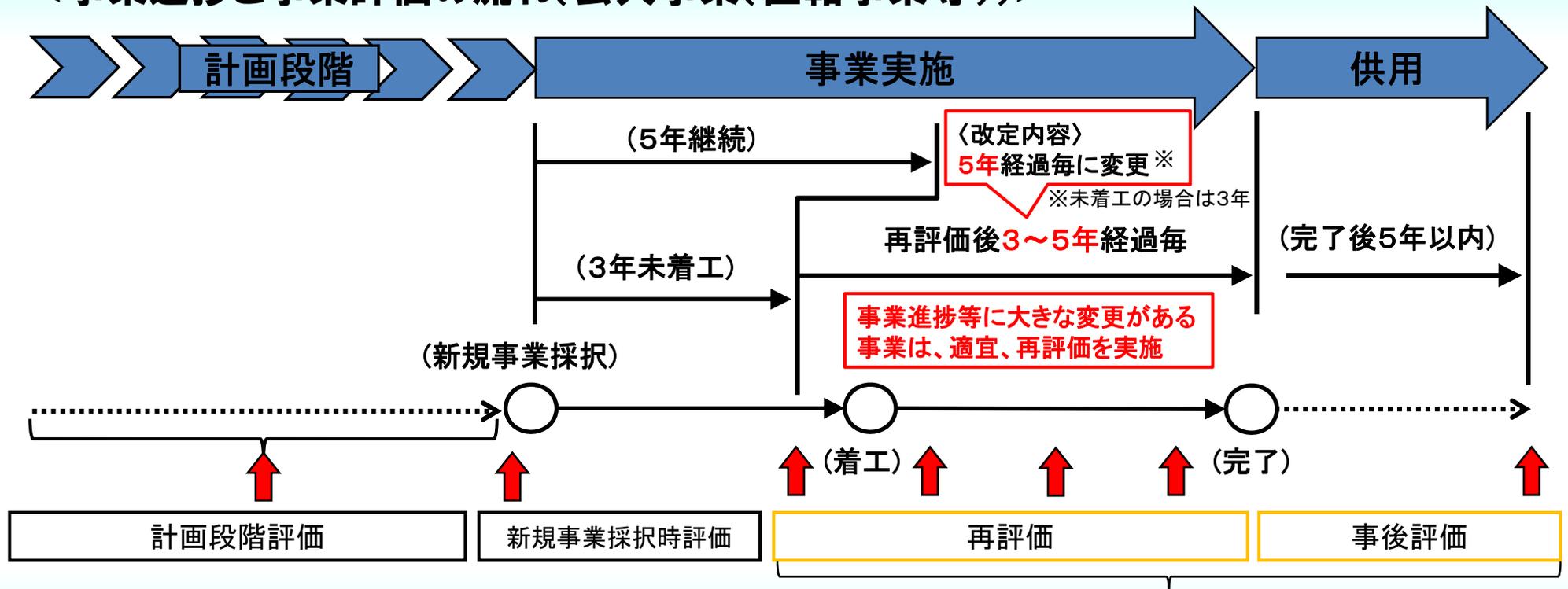
## 事業進捗等、公表内容(案)

事業名 (箇所名)	実施箇所	事業期間等	総事業費(億円) 上段:前回評価時 下段:現時点	事業を巡る社会経済情勢等の変化	主な事業の進捗状況	主な事業の進捗の見込み	コスト縮減や代替案等の可能性
〇〇河川改修事業	〇〇県〇〇市、〇〇町、 〇〇村	平成〇年度 ~平成〇年度	0,000 0,000	※事業採択の際の前提となっている需要の見込みや地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等の変化の状況等	※事業の進捗率、残事業の内容等	※事業の実施のめど、進捗の見通し等	※技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減の可能性や事業手法、施設規模等の見直しの可能性
国道〇号〇〇道路	自:〇〇県〇〇市 至:〇〇県〇〇町	〇〇年度事業化 〇〇年度用地着手 〇〇年度工事着手	0,000 0,000				

# 再評価実施間隔の見直し

	中間とりまとめのポイント・実施要領の改定概要 (平成30年3月30日)	中部地方整備局の対応
再評価	<p>■再評価実施間隔の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業進捗等に大きな変更がない事業については、再評価の実施間隔を5年を基本とし、適宜検証</li> </ul>	<p>■再評価実施間隔の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>5年を基本、未着工が継続する事業は、3年</li> <li>⇒事業進捗等に大きな変更がある事業は、適宜、再評価を実施</li> </ul>

## <事業進捗と事業評価の流れ(公共事業(直轄事業等))>



中部地方整備局事業評価監視委員会は、再評価及び事後評価を実施する事業の対応方針(原案又は案)について審議を行う

# 平成30年度における審議区分(案)

	中間とりまとめのポイント・実施要領の改定概要 (平成30年3月30日)	中部地方整備局の対応
再評価	<p><b>■再評価資料の簡明化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業進捗等に大きな変更がない事業については、事業進捗確認の資料を活用するなどの簡明化</li> </ul>	<p><b>■メリハリある審議</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業進捗等に大きな変更がない事業は、資料を簡明化(一覧表等)し審議を効率化</li> <li>事業進捗等に大きな変更がある事業は、十分な審議時間を確保して審議</li> </ul> <p>⇒ <b>メリハリある審議(重点・一括)を継続</b></p>

## 平成30年度における審議区分(案)

**メリハリある審議** (「進捗状況等に大きな変更が生じた事業」の審議の充実を図る。)

### 重点審議

(進捗状況等に大きな変更が生じた事業)

- 委員会において、十分な審議時間を確保して審議の充実を図る

以下の項目に1つでも該当する事業

- 事業計画が大きく変更された事業
- 需要量等が大きく減少する事業
- 事業費が大きく増加する事業
- 事業進捗の予定が大きく変更される事業
- その他の要因により進捗状況等に大きな変更が生じた事業

### 一括審議

(進捗状況等に大きな変更が生じていない事業)

- 一覧表等を用い簡潔に説明、審議の効率化を図る

※委員会での審議の必要性について委員から提示された場合は、重点審議に変更

- 委員会前に資料を送付し、意見等を収集
- 委員会当日は、県知事等の意見や事前に収集した意見について報告を行い審議
- 報告では、前回からの変更点、進捗状況、進捗の見込みについても簡潔に説明

※一括審議は、平成26年度より実施

# 進捗状況等に大きな変更が生じていない事業の審議の効率化

前回からの変更点、進捗状況、対応方針(原案)について、以下の様式で簡明化を図り審議頂く

平成30年度 ○回事業評価監視委員会 一括審議案件

事業名 (箇所名)	実施箇所	事業期間等	総事業費(億円)		事業を巡る社会経済情勢等の変化	主な事業の進捗状況	主な事業の進捗の見込み	コスト縮減や代替案等の可能性	事業の効果等	事業の投資効率性		感度分析		都道府県・政令市等の意見
			上段: 前回評価時	下段: 現時点						【事業全体】 総便益B: ○○億円 総費用C: ○○億円 B/C=○○	【残事業】 総便益B: ○○億円 総費用C: ○○億円 B/C=○○	【事業全体】 B/C=○~○(需要量 ±○%) B/C=○~○(事業費 ±○%) B/C=○~○(事業期間±○%)	【残事業】 B/C=○~○(需要量 ±○%) B/C=○~○(事業費 ±○%) B/C=○~○(事業期間±○%)	
○○河川改修事業	○○県○○市、○○町、○○村	平成○年度 ~平成○年度	0.000	0.000	※事業採択の際の前提となっている需要の見込みや地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等の変化の状況等	※事業の進捗率、残事業の内容等	※事業の実施のめど、進捗の見通し等	※技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減の可能性や事業手法、施設規模等の見直しの可能性						
国道○号○○道路	自: ○○県○○市 至: ○○県○○町	○○年度事業化 ○○年度用地着手 ○○年度工事着手	0.000	0.000										

事業進捗確認の資料の活用

再評価時に実施する項目

# ストック効果や知見のアーカイブ化（事後評価）

	<h2>中間とりまとめのポイント・実施要領の改定概要</h2> <p>（平成30年3月30日）</p>	<h2>中部地方整備局の対応</h2>
<h3>事後評価</h3>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 多様なストック効果の把握</li> <li>■ ストック効果や知見のアーカイブ化</li> </ul>	<p>多様なストック効果の定量的・客観的な把握に努め、将来の事業展開等の参考となるようとりまとめ、知見を整理・保存、オープンデータ化</p>

## とりまとめイメージ

### 関東 インフラ プロジェクト・ アーカイブス

No.5  
平成27年度事後評価  
+  
平成28年度事後評価  
(評価案件 8件)



平成30年3月

国土交通省  
関東地方整備局

事後評価を実施したプロジェクトの中から代表事例を選定し、とりまとめ保存（アーカイブ化）。ホームページにて公表

### 事業概要

図3-3 東京近郊圏外環状道路整備計画（上野区～目黒区間）

#### 湾岸副都心圏の円滑化、圏外への新規物流拠点の立地促進、観光スポットへのアクセス向上を図る

～東京湾南側地区環状道路整備計画（環状線）～

概要

- 路線長：約10.5km
- 車線数：4車線
- 建設費：約1,000億円

事業目的

- 湾岸副都心圏の円滑化、圏外への新規物流拠点の立地促進、観光スポットへのアクセス向上を図る。

効果

- 交通渋滞の解消、物流効率の向上、観光客の増加、地域の活性化。

### 2. プロジェクトの効果

図3-3 東京近郊圏外環状道路整備計画（上野区～目黒区間）

#### 1) プロジェクトの意義

湾岸副都心圏の円滑化、圏外への新規物流拠点の立地促進、観光スポットへのアクセス向上を図る。

#### 2) プロジェクトの成果

交通渋滞の解消、物流効率の向上、観光客の増加、地域の活性化。

### 1. プロジェクトの内容と目的

図3-3 東京近郊圏外環状道路整備計画（上野区～目黒区間）

#### 1. プロジェクトの内容と目的

湾岸副都心圏の円滑化、圏外への新規物流拠点の立地促進、観光スポットへのアクセス向上を図る。

### 3. プロジェクト実施にあたっての特記事項 4. プロジェクトによって得られたレッスン 5. 考察

図3-3 東京近郊圏外環状道路整備計画（上野区～目黒区間）

#### 3. プロジェクト実施にあたっての特記事項

湾岸副都心圏の円滑化、圏外への新規物流拠点の立地促進、観光スポットへのアクセス向上を図る。

#### 4. プロジェクトによって得られたレッスン

交通渋滞の解消、物流効率の向上、観光客の増加、地域の活性化。

#### 5. 考察

今後の事業展開への参考となるようとりまとめ、知見を整理・保存、オープンデータ化。